

第1回練馬区地域福祉活動計画推進評価委員会

日時：2006年8月3日（木）6時半～

会場：練馬ボランティアセンター

* 会議開催あいさつ

- ・ 資料確認（要綱・委員名簿・推進方策案）

1. 常務あいさつ

- ・ 私どもが策定した活動計画の推進のための委員会で前から関わってくださった方もいらっしゃるが、これから社協の事業が円滑に進むようにご意見をいただければと思っている。

2. 委嘱状交付、委員自己紹介

委員：専門は地域福祉を教えている。練馬区社協との関わりはボラセンの運営委員を5年ぐらい、活動計画の策定委員。

委員：3月までは東京都の社協にいた。その関係でこちらの計画に関わった。今は、市民の目からみた施設評価をやっている。4月から権利擁護センターの運営委員。

委員：精神障害者通所授産所を運営、きららの運営委員長、障害者が地域で生活するためには地域での支援が大切と考えている。社協の役割は大きい。

委員：知的障害者の通所授産所の山彦作業所の所長をやっている。苦情解決第三者委員もやっている。策定から関わっている。障害者福祉は自立支援法が本格施行のため、それで頭がいっぱいだが、地域の状況をもっと勉強したいと思っている。

委員：民協から。S61年から民生委員をやっている。

委員：社協の理事、ボラセンの運営委員。要約筆記や障害児の支援などのボランティア活動をしている。

委員：NPO法人シニアふれあい練馬の会長をしている。シニアが地域に役立つ存在になろう、シニアの力を使って何かをやろうという団体。居場所づくり、役割づくりには関心がある。

委員：NPO法人ジャムネットの代表。また、軽度発達障害の勉強会がボラセンであり、そこで親の立場として発言をし、その受講生を中心としてIamOKというグループを作った。しあわせ福祉ネットという関地域を中心としたネットワークも作った。

委員：中小企業は惨憺たる思い、労使の立場から発言できればと思っている。

委員：関係行政機関として練馬区から参加。4月から福祉部長、福祉関係はまったく初めて。今、福祉関係は法律などもものすごいスピードで動いている。その状況との関連なども踏まえ、活動計画を進めるのをチェックしていけたらと思っている。

職員、実習生紹介

3. 委員長・副委員長選任

- ・ 事務局一任（委員より）
- ・ 委員長は森本委員に、副委員長は明星委員にお願いしたい。

委員長挨拶

- ・ 作った責任者が推進評価の委員長をやるのはおかしい、と言ったのだが、責任をとる意味でもやることにした。計画は委員会の中で、かなりのやり取りの中で作られてきた。計画は作るのが目的ではなく、行うのが目的、絵に描いたもちにならないようにしたい。途中の状況に合わせて行いたい。

副委員長挨拶

- ・ 今は、社協が変わるとき。変化する時は大変なときだが、変化するときが好きで、新しいものが生まれてくることへの期待がある。せっかく作った計画なので実のあるものにしたい。

委員長

- ・ 進行は自分がするが、立場は関係なく、発言をしてほしい。

4. 地域福祉活動計画説明

常務より概要説明

委員

- ・ 社協は組織が硬直化していたので、部署を超えてまとまって計画を策定したのはとても良かったと思っている。できただけでは意味がないので、どのように実行されるか、きちんと見守って言えるような見守り方をしたい。

委員

- ・ 自治会、老人クラブの立ち上げに関わっていて、この役目は自分でいいのかと思っている。活動計画策定は大変だったと思っている。

委員

- ・ これからが大変と思っている。地域の機関を結びつける、情報を発信、共有するなど一社会法人や、行政ではない役割をやるのが社協と思っている。最初に相談するところが社協、そして最後にかけこむのも社協であってほしい。一緒に考えるというのがこの評価委員と思っている。

委員

- ・ 策定中、相談業務の調査をしたが、情報化社会といわれているが本当のニーズというのはどういうものか、どう解決したらいいのか、エネルギーがとてものいるとわかった。福祉サービスが曲がり角に来ている、とシビアに感じている中、社協が情報をつなげる、地域のいろいろな解決の手段に丁寧につなげるというのをやっていきたい。

副委員長

- ・ 策定段階で社協の職員だという思いが無かった人も含めて社協のことを考えて関わっていったというのが、よかったし、社協に期待できるというものだった。しかし、少し前の社協の職員はもっと地域に出てくれていたと思うので、もっと地域に出てこないで大変だと思う。地域での新しいネットワークに社協は取り組んでいるとは思いますが、もっと地域に職員が出て、新しいことを掘り起こしてそれもものすごいスピードでやらないといけない。さらに、会員組織ということをもっと訴えて、しかも主体的に関わる会員を増やしていったほうがいい。そういうところも応援したいと思っている

委員長

- ・ 作り終わった段階でもう少し詰めておくべき点があった。地域福祉計画との連動性を明確にすべきだった。ネットワークなど。町会自治会や地域との関わりなど、計画の推進で最終的には地域の人を巻き込んでいかないといけない。細かいところまで実際に計画には書き込めなかったが、目線としてはそこにあるということを言っておきたい。

活動計画に関して質問 特になし

5. 地域福祉活動計画推進評価委員会の機能・役割、会議開催のスケジュールの確認

職員より、資料に基づいて説明

- ・ 各プロジェクトはそれぞれ準備を進めている。個別に委員の方へ協力をお願いをするかもしれないので、その際はご協力ください。

委員長

- ・ 活動計画の53ページ以降に推進は書いてあるが、具体的に何をするか、はあまり明確になっていない。各部署で行うべき事業は各部署で行うが、社協全体で取り組まないといけない事業は、プロジェクトチームの職員が中心に課題別に取り組んでいく予定。その推進の進行を見直していく、つまり評価するのがこの委員会。5年後の22年度にかなり進んだ状況が見られ、新しく状況が変わったことで見直しがされることも出てくると思われる。

質疑応答

- ・ 障害者自立支援法で、かたくり、白百合、きららは移行すると思われるが、取り組みを本当にやっていけるのか不安に思っている。特にきららは市区町村の裁量で決まるし、白百合、かたくりもそうであるが、どうやるつもりなのか。
- ・ 社協の最終的決定は理事会であり、残念ながら事業をどうするかはこの委員会では決められない。決定したことに対して、最善の策を考えていくことはできる。

→(局長) きららに関しては職員を中心にいままでやってきたことにプラスして自立支援法の中で何ができるか、をまとめ、行政と打ち合わせをしている。かたくり、白百合は障害者計画の中でどのような位置づけになるのか、おおまかな方向は出ているが、まだまだ社協のみで決めきれないものがある状況。基本的には活動計画を活かしていけるような事業展開を社協から提案していこうと思っている。今後区の方針が決まらないと難しいが、状況の変化とともに決まったことに関してはこの委員会に報告したい。

- ・ 事業内容、委託先など区が決めることだが、社協に委託するこのようなメリットがあるということをアピールしていければ受託できるわけで、それが社協の独自事業との連携の中でやっていけるので、レベルの高いサービスを展開できるのはこの委員会に係っている。きららに関しては、きららの運営委員会との連携も必要である。

- ・ 変化の時代、組織が硬直している、社協のあり方、など意見が出ているが、現状の組織の見直しと断定的に書いてあるが、いままでのやり方は時代に合わなかったということになるが、どう合わなかったのか？ひとりの不幸も見逃さない、という理念はいいが、それでやってきたのに、どうしてだめだったのか

→(委員長)これからこの理念を掲げてやっていこうというもの。いままでの社協の仕事のひとつひとつが縦割りだった。横の連携を風通しをよくしてお互いの部署が何をやっているのか、いままでうまくできていなかった。それが実は発見していた不幸を適切な支援に結びつけられなくさせていた。今後はひとりの不幸も見逃さずに発見し、すべてを社協で解決していこうというのではなく、他の資源や地域の力、ネットワークにも結びつけてやっていこうというもの。

- ・ テクニックを聞きたいのではなく、幸せという概念をどのように捉えるのか、みんなを幸せにするというのは多面的で難しい、社会が変わってきたのにできるのだろうか。

→(委員長)財源に限られ、公的責任のみで対応が難しくなっている状況の中、人のつながりや、地域のネットワークを作ること、地域の中での発見ができ、地域の中で解決していく仕組みを作り、育てていくということ。地域のグループが相互扶助されて地域が変わっていくと思われる。

- ・ 地域福祉というのは住民を巻き込んだものをやろうということ。住民を巻き込んだというのは、草の根まで情報がいきわたり、ネットワークでやっていけるということか。

→(委員長)仕組みが変わった大きなことは、サービスを受ける側と提供する側がはっきりしていたのが、両方やる可能性があるということになった。巻き込むというと語弊があるが、地域が主体的に関わるという意味。

- ・ 相互扶助の意味があるということか

→(委員長)そうだと思う。シビアなサービスが必要な場合は公的なサービスで対応し、専門的な問題には専門職のつながりを活かし、住民とうまく関わりながら、地域の中でやっていくということになるのではないかな。

- ・ 軽度発達障害の子供たちを応援する会をやっているが、この問題は大きく虐待の問題と関わる。今現在サービスが必要でなくても将来必要となるグレーゾーンの人達にも手を広げていく必要がある。しかし、社協スタッフだけでは手が足りない。その部分をどう住民を発掘するか、が課題。住民がボランティアになるきっかけを作っていく、掘り起こしていくのが必要。社協は仕事が多いのに、それ以上にPTをやろうとするのは大変なので、いかに地域住民を巻き込んでいくかだと思う。財源確保というのはスタッフだけでは難しい、ひょっとしたら、地域のボランティアの人で関わってもらえる人がいるかもしれない、スタッフの負担をいかに外部の人を巻き込んでやっていくかということが必要だと思う。また、社協のデジタル化が進むようにしてもらえたらいいと思っている。仕事も増えるが、学生ボランティアを組み込んでやるのもいいのでは。

→(委員長)スタッフも私も閉じ込めるつもりはなく、スタッフのみでは無理と思う。いろいろな方に自分の問題と関わって協力してもらえたらと思う。そのような人達を発掘するのが社協の本来の仕事だと思う。財源を作るのは社協職員はしたことが無い人たちばかりなので、木内委員に相談した方がいいかもしれない。

- ・ いままで理事・評議員、民生委員等との連携はどうだったのか。

→(局長)行政ほどに大きな組織ではないので、職員の働きがけ次第でやれると思う。

→(委員長)一般的な社協を見ると、理事会と社協の事業はうまく連携しきれていないと思う。理事会は無報酬なのでそんなに仕事がないという状況もある。しかし、時代が変わって、それでもやっていこうという時代になってきていると思う。微妙な関係とは思われるが、自分たちの地域を自分たちで作っていこうという気持ちが出てくればそのようなこともできると思う。

6. 今後の会議の進め方について

職員より

- ・ 次回の委員会を11月以降に組みたい。

→12月5日(火)6時半から。その時にはPTの報告もあるし、その前に各PTから委員の方に協力の要請をする予定。

- ・ 会議は原則公開、議事録は会議終了後に委員にメールまたはファックスで訂正をお願いする。修正後HPで周知する。傍聴もOKとしたい。委員名簿はHPに掲載、発言者の名前は議事録に掲載しない。

7. その他 なし

8. 次回について

日時：2006年12月5日(火)